倶多楽の火山活動解説資料（平成 21 年 11 月）

札 幌 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月１日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ **噴煙及び熱活動（図２～４）**

４日に室蘭地方気象台が実施した現地調査では、日和山、大湯沼、地獄谷等の噴気や地表面温度分布は、これまで（前回：2009 年３月）と比較して大きな変化はありませんでした。

・ **地震活動（図５～６、表１）**

広域ネットによる観測では、倶多楽付近を震源とする地震はありませんでした。

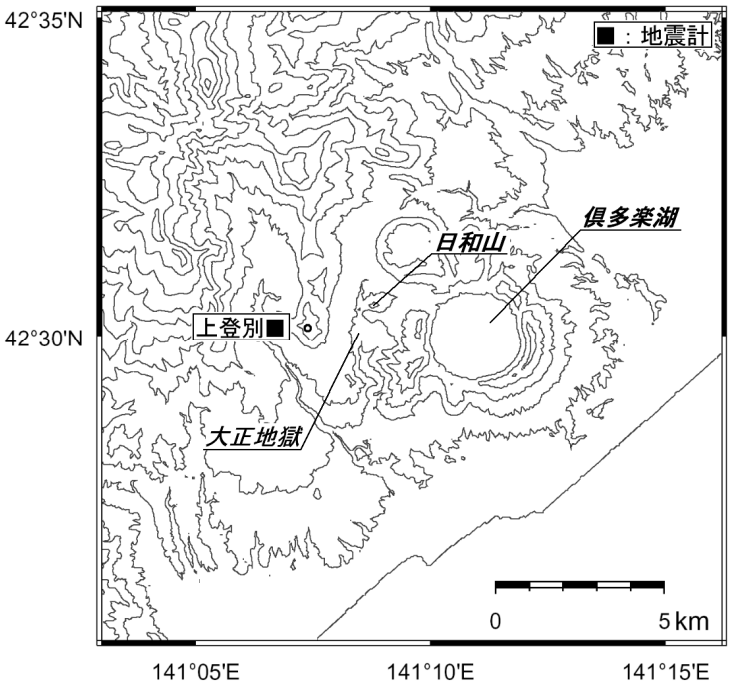

図１　倶多楽　地震計配置図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(http://www.jma-net.go.jp/sapporo/)や気象庁のホームページ(http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 12 月分）は平成 22 年１月８日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50ｍメッシュ（標高）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号　平 20 業使、第 385 号）。

図２　倶多楽　地獄谷の状況
（2009 年 11 月４日　図３の②方向から撮影）

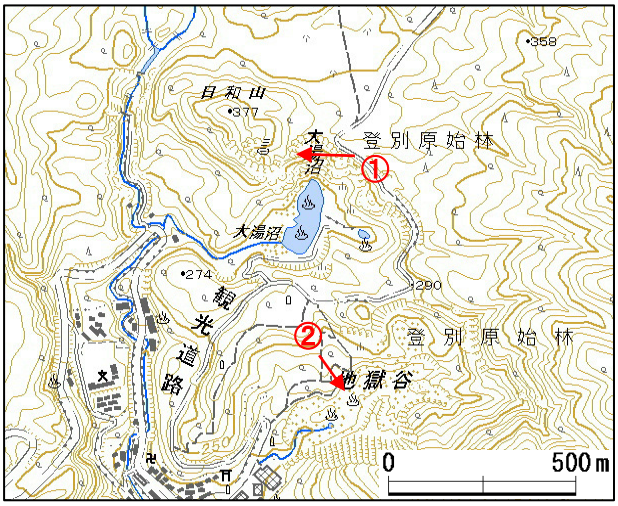

図３　倶多楽　日和山・地獄谷周辺図

・地獄谷爆裂火口、大湯沼の状況は前回（2009 年３月）と大きな変化はありませんでした。

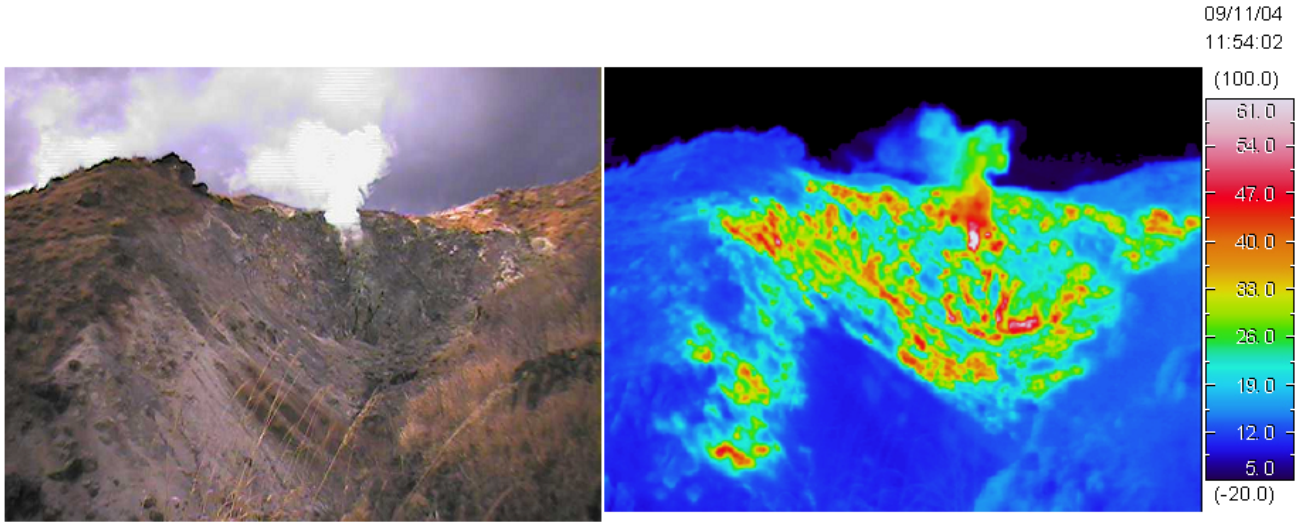

図４　倶多楽　赤外熱映像装置[1)]による日和山山頂爆裂火口の地表面温度分布
（2009 年 11 月４日　図３の①方向から撮影）

・日和山山頂爆裂火口の状況に変化はありませんでした。噴気温度（直接測定）は 2006 年まで約 120℃で推移していましたが、2007 年以降は約 130℃で経過しています。赤外熱映像装置[1)]による観測では、山頂爆裂火口の地表面温度分布に変化はありませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

表１　倶多楽　地震・微動の月回数（図１の上登別で計数）

2008～2009 年	12 月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月
地震回数	2	1	1	5	1	2	2	1	0	*(2)	×	×
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	×	×

*地震観測点上登別は障害のため2009年９月５日から欠測となっています。

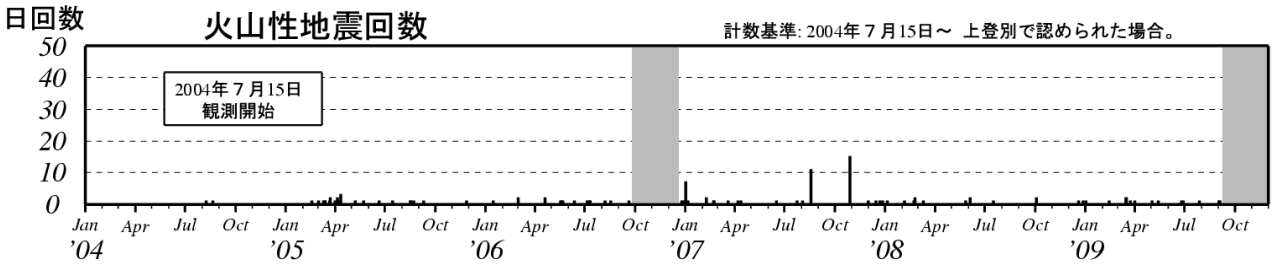

図５　倶多楽　日別地震回数（2004 年７月～2009 年 11 月）

図の灰色の期間は機器障害のため欠測

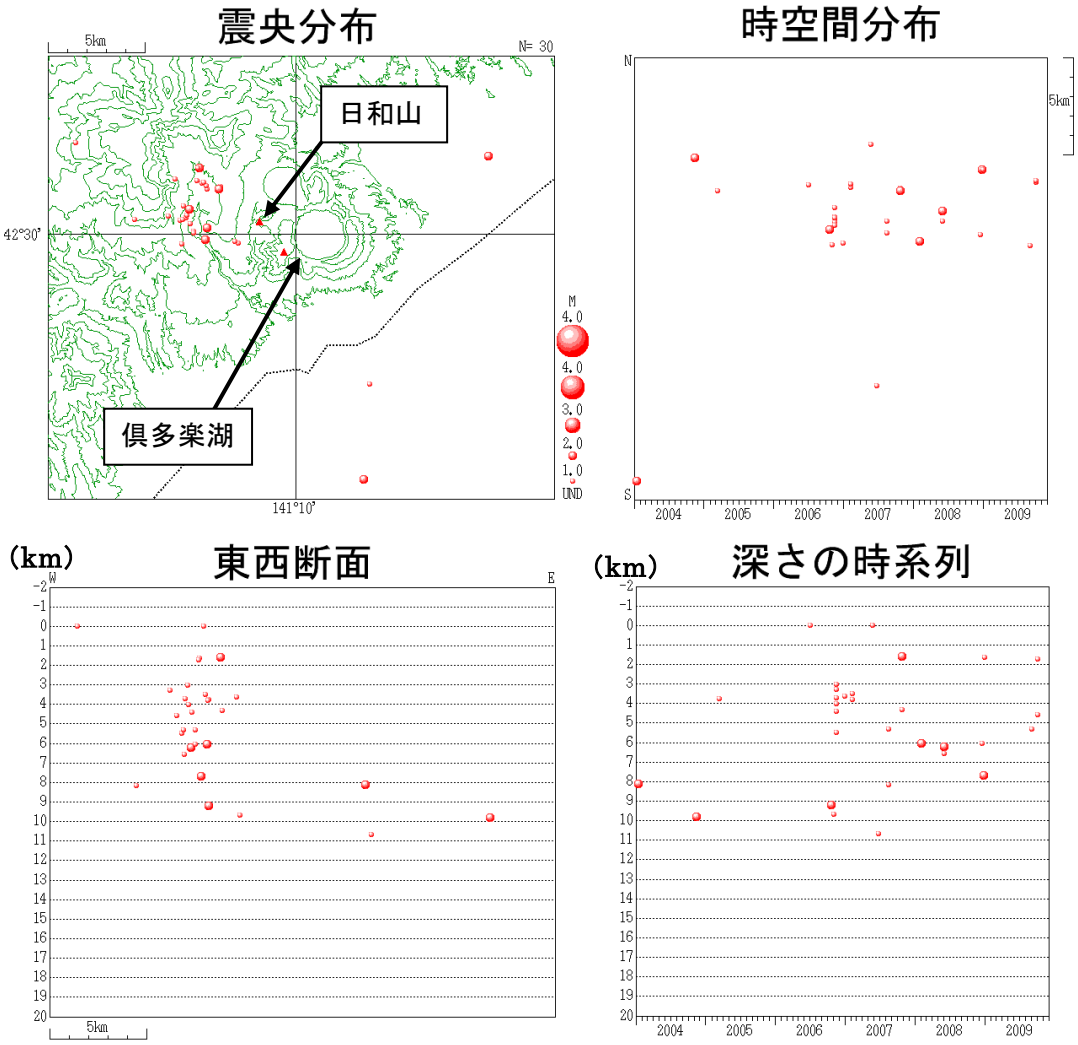

図６　広域ネットによる倶多楽周辺の地震活動(2004 年１月１日～2009 年 11 月 30 日)

マグニチュード（M）は地震の規模を表します。資料中のMは暫定値で、後日変更することがあります。